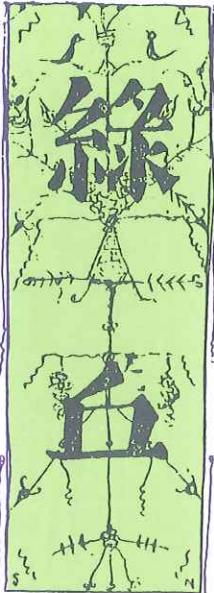


○全3巻〔大正14年→昭和55年〕

不一出版

# 小樽商科 大学新聞 緑丘

## ○復刻の辞



○小樽商科大学新聞『緑丘』は、大正十四年（一九二五）年六月五日、小樽高等商業学校編纂部によつて創刊された。

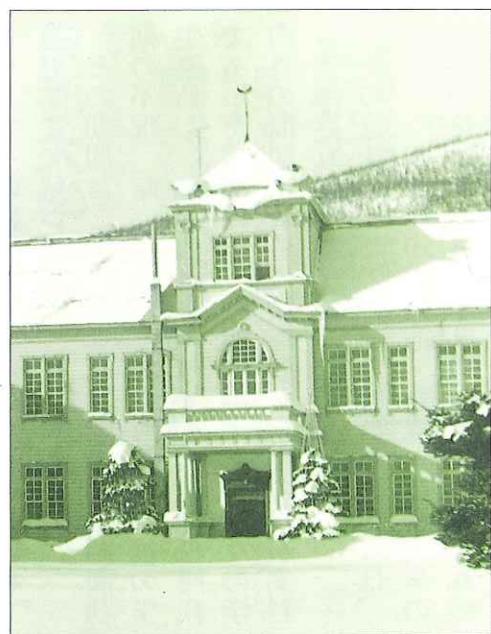
創刊号は、タブロイド版六頁（ただし、現存する

原紙は二頁欠）、以後年六回から十回の不定期刊行、紙名も、大学名の変遷と共に数回改題しながらも、昭和五十五年まで継続発行された。

○創刊号の一面「発刊の辭」には、「北国、六月の青葉かぐはしき乾坤の夏、我等は方に新なる使命の下に揚々の意氣壯大の意企を抱き、わが緑ヶ

丘の生誕を我等に連なる幾千の土に告ぐるの光榮を荷ふ。」と高らかに発刊の意気込みをのべている。大正末期、戦前の日本でもつとも民主的氣運の高まつた大正デモクラシーの波は、すでに全国に波及し、小樽にも花咲く時期であることを思わせる。

○高商→経済専門学校→商科大学という歩みをたどつた現在の小樽商大は、本年八十周年を迎える。この間、道内はもちろん、全国に有望な人材を輩出し続け、特に経済界に時代をリードする先輩の多いことは有名である。また、文学の分野でも、小林多喜二、伊藤整らの活躍は、文学史・社会運動史に残るものである。



この様な大学内外の動きを敏感に捉え、報道しつづけた『緑丘』は、小樽という地方のみならず、日本近現代史の貴重な証言といえる。

○本復刻版は、この『緑丘』の創刊から昭和五十五年までの復刻版である。しかしながら、原紙の保存状況が極めて悪く、かつ欠号が多くあるが、大学図書館のご協力を得、細心の注意を払つて、この稀観新聞を復刻する。

日本近現代の学術・文化・社会運動の推進力である大学における学生新聞は、近現代史研究の貴重な資料となるであろう。

学問と開拓者精神を常に追求し続けた  
商大学生新聞の復刻版——大学創立80周年記念出版！



